

(様式3)

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者様が自分らしく生活できるように支援していくかを定期的に行う会議で話し合い理念を作り上げている。</p>	<p>地域密着型サービスとして何が大切かを利用者様や地域のニーズの変化に合わせて必要時には理念の作り変えも検討する</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員の採用時やオリエンテーション時には必ず理念についての説明があり、理念に基づき業務できるように取り組んでいる</p>	<p>個々の職員が毎日理念を振り返り実践に取り組む様勤める</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族や行事などでボランティアの方が来訪された際は理念について話し合い意見をいただき参考にしている</p>	<p>理念を家族や地域の人々に理解してもらえよう、勉強会や話し合いを行なえるよう取り組んでいく</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ご近所の方と会った際は、必ず一声かけ挨拶し、顔見知りになっている。ホームの前にパンの移動販売車や魚屋が来るので、近所の方も利用していて接する機会が多い</p>	<p>畑での作物の収穫ができれば近所へのおすそ分けをしていき、施設内の行事に気軽に参加できる雰囲気を作っていく</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>利用者様の体調を確認し、盆踊り・子供会など地域活動に出来る限り参加し、交流をさせていただいている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		<p>地域の方々の協力を得、支援に関する知識や実践経験をお話ししていく様取り組む</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>職員間で評価の意義や活用方法について話し合い全員が評価の狙いをしっかり理解し改善に取り組んでいく</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>必要なときにしっかり支援できるよう体制を整えるため、全職員の制度の理解を深め、アドバイスを行なっていく</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>研修に参加したり、勉強会も開いていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとり、丁寧に説明するように努めている。特に料金面や事故発生、重度化によるリスクなどは詳しく説明し十分に納得された上で手続きを進めている</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様の言動から思いや変化を察知できるように努め、利用者様のストレスを軽減出来るように毎日のコミュニケーションや観察を大切にしている</p>	<p>介護相談員の派遣を赤穂市より依頼されており、受け入れ予定である</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>定期的にホーム便りを利用料請求書に同封している。また、個々の暮らしぶりや健康状態は面会時にお話ししたり、請求書に毎月つけて報告している。金銭については、用途の確認、金銭出納帳の明示をしている</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族が訪問された際に何でも気軽に話していただけるような雰囲気作りに努めている。出された意見や要望は反映できるように率直の解決を図っている</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の全体会議で意見・要望を聞くようにしており、日頃からのコミュニケーションも大切にしている。不満や苦情は言い難い部分も多いので必要に応じて1対1の面談を行い話せる機会を設けている</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者様の状態やペースに合わせたケアができるよう職員体制を整え、必要に応じて柔軟にスタッフの配置を考えている</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が利用者様や家族との信頼関係を築く上で大切だと考えており、離職がやむを得ない場合もきちんと影響を検討し引き継ぎ対応している		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修の他、外部で開催される研修にも勤務上可能な限り参加している。研修報告書は全員が回覧できるようにしている。		職員の職種・経験能力に応じた研修を受けることが出来るように体制を整えていく。また、事業所内でも勉強会を開いていく
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連する事業所などと交流会を開いて情報交換を行いサービスの質の向上に努めている		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスや疲労に気を配り、要因を把握できるように努めている。休憩時間には利用者様と離れて一息できる場所を確保しており、建物外でも休憩所を設けている		職員によってストレスの感じる内容は異なり、十分に話を聞ける機会を作っていく
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格制度に向けた取り組みを行っており取得後は本人の意思を尊重しながら力を発揮できる環境づくりに努めている		職員の日頃の努力や具体的な実績、勤務状況等を把握し、向上心を持って働けるような配慮や対応を行なう

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前の面接で心身の状態やご本人の意思をしっかりと把握し、不安や悩みを理解し軽減できるよう努めている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族が困っていることや不安に思っていることをしっかりと把握し、ホームとしてどのようなサービスが提供できるのかじっくり話し合いができるよう努めている</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談のなかで信頼関係が築いていけるよう努め、ご本人やご家族の状況や思いを把握し、改善に向け必要なサービスの提案をしている</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご本人がホームに見学に来ていただくことでホームの雰囲気を知っていただき、また職員もご本人と話をすることによって状態を把握した上で入居に向けた準備を行なっている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者様と職員がお互い「人」として接し、喜怒哀楽を共有し支えあえる関係を築けるよう努めている。スタッフと利用者様との共同作業の場を多くもつよう心がけている</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者様の日々の様子や出来事を1ヶ月ごとに請求書につけてご家族に送付している。面会の際にも近況を報告して、情報を共有することで利用者様を支援する協力関係を築いている。また、ご家族がホームに介護をまかせきりにならないようにしている。		入居後、利用者様とご家族の気持ちが離れてしまわないように、必要な事について職員間で話し合い、支援していきたい。
29 利用者や家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者や家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様やご家族の状況を確認しながら外出や外泊を勧めたり、行事にご家族をお誘いし、より良い関係の継続を支援している。		職員の関わりにより利用者様とご家族との距離が離れた状態になっていないかの確認に心がける。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の生活習慣を大切に、馴染みの人間関係や社会との関係を断ち切らないよう支援している。電話や訪問等継続的な交流ができるよう支援に努めている		馴染みの知人や友人、行きつけの場所など過去との関係を把握し、来ていただいたり出かけていくなどの機会を積極的に作っていく
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を理解し、孤立しがちな方は職員が仲介に入るなどして関わりをもち、ともに楽しく暮らせるように支援している。		利用者同士がともに助け合い支えあって暮らしていくことの大切さを職員が理解する
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了された方も行事に招待し、継続的な関係が築けるようつとめていく		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者様との信頼関係を築き、毎日の関わりの中で会話や言動から希望・意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者場合はご家族から情報を得てご本人の立場から代弁者として話し合うようにしている</p>	<p>職員全員が利用者一人ひとりの思いや意向について関心を払い把握するように努めている</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用開始時に聞き取るようにしており、センター方式の一部をお渡しして、入居時までに記入をお願いしている。その後もご本人・ご家族のお話を聞きながらこれまでの暮らしを知り、ケアに活かしている</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の生活リズムを把握し、職員全員が利用者様を見つめる目を養うよう心がけている。出来ないことより出来ることに注目し、有する力を生活の中から見出し把握できるよう努めている</p>	<p>利用者の部分的な問題に捉われず、個々の一日の生活の流れにそって状況を把握するよう心がける</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者様、ご家族の意向や思いを反映できるようにアセスメント・モニタリング・カンファレンスなどを行い、利用者様主体の介護計画作成に努め、同意を得ている。</p>	<p>利用者様がよりよく暮らす支援として何が必要か、職員も常に念頭に置きながら介護を行なう</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>設定した期間での見直しはもちろん、状態が変化した場合や、入院後の変化に応じて現状に合った介護計画の作成に努めている。</p>	<p>状況の変化がないようでも、毎日新鮮な目で見直すように努めていく</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は利用者様を身近で支える職員しか知りえない事実やケアの気づきを具体的に記録している。特変時はその場で具体的に記録し、情報を共有している。勤務時間前はこれらを確認している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者様やご家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し、満足していただけるよう支援している		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者様が生き生きと安心して生活できるように地域の方やボランティアの協力を呼びかけている。消防署の協力の下、避難訓練・心肺蘇生の講習等定期的に取り組んでいる		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	魚、パンの移動販売車が定期的に訪問しており、利用している。利用者様と一緒に選んだ魚がその日の夕食になったり、パンもおやつ時に食べるようにしている		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会では地域包括支援センターの方がメンバーであり、事業所内の件については定期的に報告している。		認知症の人を地域で支えるために、地域の情報や協力が得られるよう関係を築いていく

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>パート職員も含めた全職員がプライバシー確保について常に具体的に認識しあうよう心がける。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>服装は利用者様が選んだものを着ていただいております。自己決定が難しい利用者様には職員と一緒に考え意見を伺いながらご本人らしいみだしなみに気を配っている。散髪は、ご本人の希望される美容院への外出援助や、訪問理容も選択していただいている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄のパターンがわかるようケース記録に入力し、時間ごとにトイレ誘導を行っている。可能な限り、トイレでの排泄を支援している</p>	
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>曜日や時間などは特に決めてはいないが、重度の身体介助が必要な利用者様は、職員の人数の関係で説明了解を得た上で日中に入浴されています。軽介助や自立された方は、個々の希望や生活習慣に合わせて入浴されています。</p>	<p>事業所の都合に合わせた入浴支援になっていないが再度確認し、個々の意向を伺いながらくつろいだ気分で入浴していただけるよう支援していく</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>生活習慣により就寝時間は利用者様個々により様々だが、ご本人のリズムに合わせて眠れるよう支援している</p>	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居者様の得意分野が活かせるよう、食事づくりや後片付けなど負担にならない範囲で役割を担っていただいている。個々にあった役割や、楽しみを理解し、外出での買い物や食事・散歩などで気晴らしができるよう支援している</p>	


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご 本人で管理できる方は所持していただいている。管理が難しい方は必要なときに職員とともに支払うようにしている。		買い物の際はご本人が支払えるよう支援するなど、お金を持っている安心感や満足感に配慮する
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の人数の関係により、外出の日程を決めての支援になってしまっている。重度利用者様の外出は特に回数が減ってしまっている。		可能な限り、利用者様の気分や希望にそって支援していくよう努める。 重度の方でも戸外で気持ちよく生き生きと過ごせるよう支援していく
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望の訴えがなかったり、うまく表出できない入居者様でも日常の会話の中から読み取り問いかけをしていき希望に添えるように支援している		入居者様の希望に沿うよう家族等と相談しながら実現に向けて取り組むよう努めていく
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ、日常的にいつでも電話や手紙を出せるように支援している。また、季節に応じた暑中見舞いなどを余暇活動の一環として作成し、ご家族へ送付している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは定めておらず、ご家族等の都合の良い時間帯（仕事帰り）にいつでも来ていただけるよう入居時に説明しており、来ていただいている。気軽に来やすい雰囲気づくりに努め、いつも明るく笑顔の対応を心がけている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による身体的・精神的弊害について正しく理解し、生活環境の整備や見守りの強化をするなどして拘束のないケアを行なっている。職員は勉強会を通し、身体拘束について周知している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者様が外出する様子が見られた場合には止めるのではなく、さりげなく声かけし、一緒に付き添う等安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援出来るように努めている 玄関前が国道に面していることから、事務所内が不在時は安全面に配慮しやむを得ず玄関のみ鍵をかけている。(主に夜間)		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	いつでも全員の様子をさりげなく見守るといつ事を常に職員間で話しており、記録などを行なう場合でも利用者様と同じ空間で状況を把握できるよう努めている。夜間は2時間ごとに巡視を行なっている。起きてこられた時にすぐ対応できるよう全体が見渡せる場所で安全確保に配慮している		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものを全て取り除くのではなく、注意が必要な物は何かを利用者様の個々の状況に応じてその都度管理方法を検討している		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故、ひやりハットの報告は、状況を全職員に伝え、報告に至った原因を全職員で話し合い再発防止に努めている。 事故やひやりハットに関する報告、記録が保存され、家族への説明と報告をしている		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法についての勉強会を行い、緊急対応についてマニュアルを整備し、いつでも閲覧できる場所に保管してあることで周知徹底を図っている。全職員が応急処置について定期的に訓練勉強会を行なっている。		全ての職員が実際の場で活かせる技術を、見つけているか常に確認していく
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を定期的に行なっている		職員だけの誘導の限界を踏まえて地域の人々の協力が実際に得られるよう取り組んでいく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者様の安全を確保しつつ、抑圧感のない自由な暮らしを支援する為にご家族様等の納得や協力が得られるよう力の発揮や自由な生活の大切さを説明し、リスクや対応策についても理解を得られるよう話し合っている。		ご家族様全員の理解は得られにくいのが現状だが、信頼関係を築きながら、今後起こりうるリスクや可能性について話し合いの機会を持ち続けたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の普段の様子をよりよく知り、常に変化や異常の発見に努めている。変化や異常が生じた場合は速やかに報告し、早期発見に心がけている。毎日バイタルチェックを行い、食事・水分量・排泄状況をケース記録に記載しているため、異常時の報告にも役立っている		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の疾患、薬については個人ファイルに説明書きをファイリング、保存し把握している。日々の服薬支援には、名前や服薬日が記載されており、飲み忘れがないよう援助している。服薬内容の変更時には、症状の変化に細心の注意をしている		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘がちな利用者様には水分摂取量の確認や食事に食物繊維の多い食品を取り込んだり、起床時に牛乳を飲んでいただいている。ラジオ体操等軽い全身運動を午前中に取り入れている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、セッティングや磨き残しのケアは利用者個々の能力に応じた支援を行なっている。歯科往診が必要な入居者様には往診に来ていただき、助言・指導していただき、おいしく食事がとれるための支援を行なっている		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の個々の状態に応じ、食事形態を変更している。嚥下困難な方にはトロミをつけたり、ミキサー食を提供し嚥下しやすい工夫をしている。カロリーの過不足や栄養の偏り、水分不足が起きないように全職員が意識を持ち、メニューの作成に至っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策のマニュアルを作成し、全職員に回覧している。手洗いうがいの徹底をし、訪問者の方にも協力をお願いしている。手拭はペーパータオルを使用し、手すり、椅子、テーブルの消毒など予防に努めている。また、職員全員がインフルエンザ予防接種を受けている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんなどは用途別に用意し、毎日漂白している。玉子や肉、魚介類は完全に火が通るよう調理し、食材の残りは鮮度など状態を確認し、冷凍したり処分している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの横壁に看板があり、花壇に季節の色花や植え込みを植えており、エレベーター前には椅子を設けて一息つけるようにしている。裏庭には芝生を設け、利用者様や家族の方との交流の場とすることが出来る		利用者様やご家族等地域の人たちの感想や意見を参考にしながら玄関周りや建物周囲の工夫を行なっていくよう心がける
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に季節感が感じられるような飾り付けを行い、季節の色花を生けるよう努めている。 ホームの中心が中庭になっており、自然の光・風を取り入れて季節感を体感できるようにしている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階玄関の前に椅子・テーブル・雑誌を設置し、1人になれるスペースを設けている。テレビの前にソファがあり、気の合う利用者様同士くつろげるようにしている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

.サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・毎週曜日を決めてサロン(クラブ活動)を取り入れている

自由参加であるが、好評である。日々の空間から離れて小さな落ち着いた部屋でリラックスた雰囲気で行っている「大人の塗り絵サロン」では、コンテスト出展を目指して取り組んでいます。

「すまいる ベっぴん」では、女性を中心にエステやメイク、ネイルなどきれいになることで心のときめきを感じていただいています。普段の生活では見られないような笑顔で喜ばれています